

コーポレートガバナンスにおける内部監査の機能と 成果に関する研究

梁, 最宇

<https://hdl.handle.net/2324/7363577>

出版情報 : Kyushu University, 2024, 博士 (経済学), 課程博士

バージョン :

権利関係 : Public access to the fulltext file is restricted for unavoidable reason (3)



氏名	梁 晟宇			
論文名	コーポレートガバナンスにおける内部監査の機能と成果に関する研究			
論文調査委員	主査	九州大学	教授	丸田 起大
	副査	九州大学	教授	大石 桂一
	副査	九州大学	教授	小津 稚加子

論文審査の結果の要旨

本論文は、コーポレートガバナンスにおける内部監査の機能と成果について、国内外の先行研究をレビューしたうえで、コーポレートガバナンスをめぐる内部統制報告制度、コンプライアンス体制、リスク管理体制における内部監査の位置づけや機能、および、内部監査の専門能力や内部監査基準の遵守度が内部監査の成果におよぼす影響といったリサーチクエスションを設定して、富士ゼロックスやソフトバンクといった我が国の上場企業をリサーチサイトとした定性的研究、我が国の上場企業を対象とした質問票調査や国際的専門職団体（内部監査人協会：IIA）のデータベース（CBOK）を活用した定量的研究などをおこなったものである。

論文調査の結果、本論文には、主に以下のような貢献が認められた。

1点目は、研究の体系性と網羅性である。内部監査に関する学術研究が少ないなか、コーポレートガバナンスにおける内部監査の制度上の位置づけ、職業専門職団体が提唱する様々な規範モデル、および上場企業の先端的実務を体系的に網羅し、点検することにより、実証分析のための構成概念や測定尺度の導出を試みている。今後の実証研究で必ず引用される重要な先行研究となることに疑いが無い。

2点目は、データの新規性である。利用自体に審査が求められる国際的専門職団体による大規模調査（CBOK）の最新データベースを、我が国の研究者として初めて活用した実証研究を実現している。すでに研究成果の海外発信を進めており、国際的な研究コミュニティから注目されて国際共同研究に発展する期待が高い。

3点目は、理論的貢献と実務へのインプリケーションである。ステークホルダーに高く評価される内部監査の成果に対して内部監査基準の遵守度や内部監査人の様々なコンピテンシーがどのように影響を与えているのか、そのメカニズムを理論化し実証している。そして、法定監査である公認会計士監査や監査役監査とは異なり、内部監査は任意監査であるがゆえに、経営者は内部監査の費用対効果を意思決定する必要があるため、本研究は内部監査に影響を与えている重要な変数を明らかにし、コーポレートガバナンスにおける内部監査制度の効果的な設計に対して有益なインプリケーションを与えている。

以上の調査結果から、本論文調査会は、梁晟宇氏より提出された論文「コーポレートガバナンスにおける内部監査の機能と成果に関する研究」を、博士（経済学）の学位を授与するに値するものと認める。